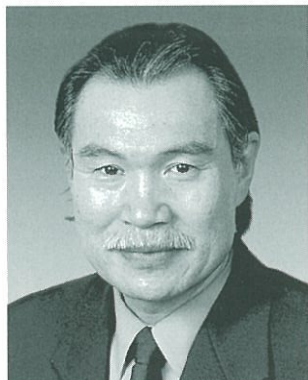




2006年
SJCDインターナショナル
合同例会in北海道

SJCD
SOCIETY OF JAPAN CLINICAL DENTISTRY

《2006年SJCD合同例会開催にあたって》



本年4月に北陸SJCDが発足し、全国でのSJCDインターナショナルの支部も11ブランチとなりました。北は北海道から南は熊本まで、全国で合計1000人超の人々がSJCD会員として在籍し、日々の臨床における知識、技術の研鑽を行っていることと確信しています。今回、SJCDインターナショナルの組織となって初となる合同例会を開催する運びとなりました。これまでも各支部における意見交換及び交流を深めるなどの目的で、支部単位の合同例会が不定期に開催されてきましたが、今後はインターナショナルの定例行事として2年に1度、各支部持ち回りでやっていく予定です。その記念すべき第1回を夏の北海道で迎えることになりました。この例会では、まさにSJCDの原点とも言うべきケースプレゼンテーションを各支部の代表者に行ってもらいます。全国の会員による熱いディスカッションが行われ有意義な2日間となることを熱望しています。

SJCDインターナショナル会長 **山崎 長郎**



北海道S.J.C.D.合同例会おめでとうございます。

S.J.C.D.は1981年にDr. Raymond Kimを最高顧問として、東京約10人、大阪約10人の計20人ほどでスタートし2年がたちました。その間に我々は、多くのことを経験し、多くのすばらしい人にも出会いました。歯科臨床においても、四半世紀の間の変化は目を見張るものがあります。しかし、Dr. Kimから学んだ基本は、これからも全国1,000人を超えるメンバーの中に生き続けていくことでしょう。

また、今回Dr.Kimの孫、曾孫弟子になる北海道S.J.C.D.のメンバーが合同例会を成功させるための多大な努力は、大変うれしく、そしてその苦勞は手に取るように分かります。特に今回は、次の世代が成長していけるように、いろいろ計画を練り、プログラムを作ってくられました。この大会が成功裡に終わることを信じると共に、S.J.C.D.インターナショナルはもちろん、北海道S.J.C.D.が永遠に続くことを心から願っています。

SJCDインターナショナル副会長 **本多 正明**

《タイムスケジュール》

7月22日(土)

- 13:00～13:15 開会式
13:15～14:45 コンベンショナル1～3
13:45～15:15 休憩
15:15～16:45 コンベンショナル4～6
17:00～20:00 懇親会

7月23日(日)

- 8:30～10:00 インプラント1～3
10:00～10:15 休憩
10:15～11:45 インプラント4～5、審美1
11:45～13:00 昼食
13:00～14:00 審美2～3
14:00～14:15 休憩
14:15～15:15 審美4～5
15:15～ 閉会式

Coordinator

Theme-1 コンベンショナルレストレーション



木原敏裕先生

奈良県奈良市開業
SJCDインターナショナル常任理事



鈴木真名先生

東京都葛飾区開業
東京SJCD会長

Theme-2 インプラント治療



伊藤雄策先生

大阪府大阪市開業
SJCDインターナショナル常任理事



小濱忠一先生

福島県いわき市開業
SJCDインターナショナル常任理事

Theme-3 審美修復治療



南 昌宏先生

大阪府大阪市開業
大阪SJCD会長



土屋賢司先生

東京都千代田区開業
SJCDインターナショナル常任理事



《コンベンショナル-1》安定した咬合を目指して

杉山 豊 宮城県仙台市開業 東北SJCD

歯科疾患の病態は多種多様であり、その疾患にはそれぞれの原因が存在する。治療に際しては、単に環境を整備するだけに留まらず、その原因に対する考察を十分に行ってアプローチすることも必要だと考えている。その中でも「咬合」は原因の重要項目の一つであるが、診断が複雑かつ困難であり、一般に治療も長期化してしまうことが少なくない。そこで今回の発表では、一般臨床医としてどのようにして「安定した咬合」を獲得できるのかについて症例を提示して、皆さんにご意見をいただきたいと思う。



《コンベンショナル-2》補綴前処置としての成人矯正治療

山添清文 新潟県新潟市開業 新潟SJCD

補綴前処置としての歯の移動は、残存歯の単なる位置関係の改善にとどまらず、最終補綴物に対して形態的にも機能的にも良好な結果をもたらす。このような理由から、幅広い年齢層において補綴前処置としての成人矯正治療が行われるようになってきている。しかしながら、加齢に伴う欠損様式や歯周組織の状態は個々のバリエーションが大きく、治療ゴールの設定に苦慮する場合も多い。今回は、補綴前矯正を行った中から比較的年齢の高い症例を供覧する。



《コンベンショナル-3》骨格的非対称性の上顎骨を伴う 全顎補綴ケースについて

天野錦治 愛知県北名古屋市開業 名古屋SJCD

SCHUDY (J.C.O 1992)によると「上顎前歯のコントロールは矯正治療には最も重要である。それらはスマイル、リップポスター、最終的な臼歯部咬合を決定する。もし適切な上顎前歯のトルク、イントロージョン、ポジションができない場合、この機能をコントロールすることはできない。」と定義している。骨格的非対称性のある上顎骨について上記を考慮し、さらに咬合平面と咬合高径、Mid Lineをコントロールしながら治療したケースを、今回供覧する。



《コンベンショナル-4》Endodontics for the achievement of Longevity

中山大蔵 石川県金沢市開業 北陸SJCD

昨今、機材の進歩と、技術の確立によってインプラント治療における予知性が高まってきた。しかしながら、その一方で、十分に保存できると思われる歯牙においても、抜歯→インプラントという安易な処置が行われることも増えてきたように思われる。永続性を考慮した場合、審美性の維持は避けては通れないが、esthetic zoneにおけるインプラントにおいて、審美性を長期保証することは大変難しく、特に審美にフォーカスを当てた場合、ブリッジによる修復を余儀なくされることも少なくない。今回、一見予知性を保証しにくい歯牙であっても、確実なエンド処置により歯牙に永続性を与えることを考えていきたいと思う。



《コンベンショナル-5》咬合調整

高井基普 本多歯科医院勤務 大阪SJCD

歯科医師に求められる高度な技術のひとつに咬合調整がある。日常臨床において、我々が咬合調整という工程に携わる時間は多い。咬合調整について、先人達が考えてこられた原理・原則は、偉大な功績であり、継承すべきものである。しかし、私の中で決して明確になっていないと感じる。今回は、咬合調整の原理・原則を臨床においてどういうコンセプトをもって臨床を行っているかを提示し、皆様に意見を伺いたいと思う。



《コンベンショナル-6》審美矯正治療のついでの一考

北園俊司 鹿児島県鹿児島市開業 福岡SJCD

近年の審美歯科治療の進歩は著しい。翼状捻転や正中離開などの軽度の不正咬合に対してはラミネートベニヤでMIによる審美修復を行うことが可能である。しかし重度の歯列不正の場合には矯正治療は不可欠である。しかもその矯正治療目標は、単にI級の咬合関係を作るだけではなく、口唇や顎顔面に対して審美的な位置に歯牙を配列することとなる。つまり矯正治療の目標を従来の硬組織の改善から軟組織の改善へと変更する必要がある、患者には外科矯正も含めていくつかの矯正治療ゴールを提示し、矯正治療後の側貌を本人に選択してもらうことが必要だと考えている。今回は、軟組織の審美的変化を治療ゴールとした矯正治療について報告してみたい。



《インプラント-1》インプラントを用いて

咬合回復した一症例

森永博臣 熊本県上益城郡開業 三村彰吾 (医) 共愛会森永歯科医院 熊本SJCD

目的：現在のインプラント治療はオッセオインテグレーションの概念が定着し、そのマテリアルの発展及びメンテナンスの改善により、診断及び治療術式の飛躍的な進歩をとげてきた。さらに適応症の拡大・審美性達成の為の技術的側面に関心が集まっている。今回、インプラントを用いて咬合回復した症例について診断、術式、審美などについて検討した。

症例の概要：患者は57歳女性。2003年2月18日に右下5の咬合痛を主訴に来院。右下67、左下4567欠損歯、右下45、右上67左下67はP4の為EXTし、パーティカルストップ獲得を目的として右上67、右下4567、左上67、左下4567にインプラントの埋入を計画した。咬合診断ではCO=CRで顎関節、筋肉に問題がない。診断用ワックスアップより今の咬合で審美、機能的なバランスが取れることなどから顎位は変更せず、プロビジョナルレストレーションで経過を見ることとした。下顎前歯部においては叢生を改善するために矯正治療を行った。



《インプラント-2》咬合高径の再構築を考慮した

咬合再構成の一症例

安富哲士 香川県高松市開業 四国SJCD

歯の磨耗や欠損によって失われた機能と形態を回復するために、術前に求め辛かったCentric relation-顎頭安定位を試行錯誤により求め運動の始発点として、新しく咬合高径を設定。さらにそれを保持しながら、与えた咬合機能に問題がないかを再評価し咬合再構成を行った。しかしそこには、矯正治療が受け入れられなかったことで生じた、Tooth positionの制約の問題があるため、咬合平面を整えVisual appearance(顔貌と歯列との調和)にも配慮しながら歯列弓の保全を達成することに大変な困難を感じた。今回、数々の臨床的なジレンマを抱えて終了した症例を呈示して、ディスカッションさせていただきたいと思う。



《インプラント-3》上顎前歯1歯欠損への対応

窪田 努 京都府京都市開業 京都SJCD

近年、修復治療はオールセラミックスを用いることにより、色・質感ともに天然歯に近づいてきている。さらなる自然感を求め、歯間乳頭・歯肉縁レベルの対称性など歯周組織のマネージメントが要求されている。歯周組織は一度失われると再建が非常に困難である。今回は、Scallop form preservation procedure(歯肉縁形態保存療法)に着目し、上顎前歯部1歯欠損におけるブリッジとインプラントについて考察したいと思う。



《インプラント-4》Implant Dentistry

相原英信 東京都開業 東京SJCD

近年、インプラントによる修復治療で機能的にも審美的にも満足の得られる治療結果、成績を収められるようになった。また、インプラントメーカーによる様々なコンポーネントの開発、改良、そして我々術者の術式、手技の発達により、ある程度の基本的なマニュアルをおさえれば誰が行っても成功するようになってきている。しかし、欠損があるというだけでインプラントを埋入するというのは、長期的な予知性を考慮する上で疑問が残る。やはり、我々が日常常に行っているSJCDのコンセプトである診査・診断・治療計画による順序だてた治療を行うことにより予知性の高い審美修復治療を行うことが出来る。そして、近年のマテリアルの変化も著しく、最近のCAD/CAMシステムには臨床家の関心度も高いと思われる。



《インプラント-5》Anterior single tooth implant

市岡千春 北海道札幌市開業 北海道SJCD

前歯部インプラント治療は近年、適切な診査、診断のもとに多様な術式を併用することにより、機能的にも審美的にも満足しうる治療法として確立されたものになってきました。しかしながら、臨床において、抜歯にいたる原因や個々の抜歯後の骨および軟組織の状態はさまざまな状態があります。今回、上顎前歯部の同一部位の欠損に対し、抜歯後埋入時期の異なる症例を発表し、それぞれの症例に対する考察を述べさせていただきます。



《審美修復-1》審美修復における診断の重要性

The importance of the diagnosis in case of esthetic restoration

森 章 福岡県筑紫野開業 福岡SJCD

近年コンポジットレジン、ラミネートベニア、オールセラミックス、インプラントなどマテリアルの進歩は目覚ましく、またドクターサイド、テクニシャンサイドにおける様々な技術的なエビデンスも確立されてきた。そのような中で審美修復の成功はドクターサイドにおける診断の精度が大きな割合を占めると考えられる。今回、前歯部欠損症例においてどのような診断の下治療を進めたかを検証していただきたいと思います。



《審美修復-2》正中離開に対する審美的アプローチ

添島正和 熊本県熊本市開業 熊本SJCD

審美という言葉には極めて主観的な要素が数多く存在し、術者によってその完成度と客観的評価が異なるというのが実感である。最終ゴールである自然感にあふれ天然歯と区別することができない修復物を製作するためには、天然歯との生物学的・解剖学的な構造上の違いを十分に理解し、得られた情報を系統だて蓄積することが、キーポイントになる。そのうえ歯科医師が考える美と患者さんが満足する美が必ずしも一致するとは限らないという事実を肝に命じておく必要がある。今回以上の事柄をふまえ、個々の正中離開患者に対してそれぞれ異なるアプローチを行い評価・検討したので、その結果について考察してみたい。



《審美修復-3》審美修復治療における診断、治療計画の立案について

松本和久 北海道札幌市開業 北海道SJCD

近年、審美修復に関するマテリアルが数多く提供されるようになり、我々の臨床の幅は広がってきている。それと同時に、患者サイドからの審美的要求も確実に高くなってきているように感じ、その結果、患者、歯科技工士、歯科医師の間でコミュニケーションをとりながら治療を進めていく必要性が、以前よりも増してきている。今回、審美的要求の強い患者に対して、私達がどのように治療を進めているかについて発表したいと思います。



《審美修復-4》日本人に適したラミネートベニア修復とは

貞光謙一郎 奈良県奈良市開業 大阪SJCD

審美的欲求のつよい患者に対してラミネートベニア修復が有用であることはいうまでもなく、接着に対する予知性や永続性を考えると形成面は最大限にエナメル質内にとどめることが望ましい。しかしながら切断面に対する考察は少なく形成量の明確な指標がない、そこで今回、私は抜去歯牙やチェアサイドSEM観察システムを用い切削表面の観察をした結果を中心に、日本人に適したラミネートベニア修復を考えてみたい。



《審美修復-5》審美修復治療

～矯正を利用したの抜歯即時埋入インプラント～

松尾幸一 東京都中野区開業 東京SJCD

審美修復治療をマネジメントする上で、臨床ガイドラインが整理された現在、よりの確な診査・診断・治療計画が求められる様になっている。

最終処置を担い、その完成された口腔内の責任を負う補綴医が一体何を目標しているのかを前段階である歯周・矯正・外科担当医が把握することこそ、本来の意味でのインターディシプリナリーアプローチだと考える。これが患者の一生を通してのMIとなるものであれば、最高の治療である。

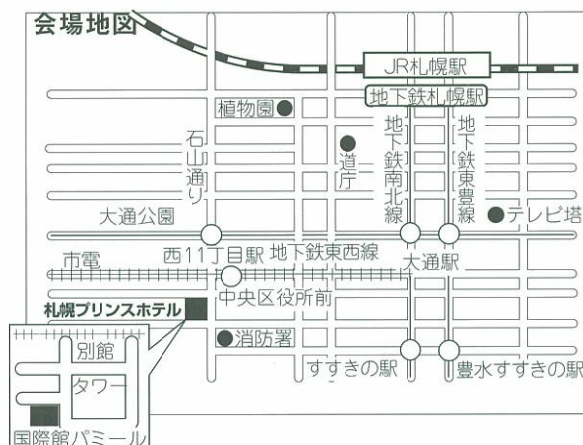
術後経過観察の中から、今回のケースが成功したポイントにフォーカスをあてて述べていきたい。

2006年SJCDインターナショナル合同例会in北海道

●開催日時 **2006年7月22日(土) 13:00~17:00**
※22日17:00~懇親会があります。

23日(日) 8:30~15:30

●会場 **札幌プリンスホテル 国際館パミール6F**



●参加資格 **SJCD会員のみ**

●参加費 **無料 (但し懇親会費は10,000円別途)**

●お申込方法 **各支部SJCDにて申し込み受付を行います。**

●ゴルフコンペ **7月24日(月)ゴルフコンペを予定しています。**

実行委員

準備委員長 / 千葉豊和
会計管理担当 / 松本和久 千葉加名代
プログラム担当 / 木村洋子
会場・進行管理担当 / 金子寛 齊藤宗良 青山貴則
受付管理担当 / 服部博
懇親会担当 / 市岡千春 市岡千拡
ゴルフコンペ担当 / 蓑輪隆宏 工藤明文
展示・賛助会員担当 / 白石静夫